

「あそび」ありますか？

堀 裕 人



しまい、心の中で舌打ちしている自分がいることに気がついたときはがく然としてしまいます。

そういえば、駅の構内や歩道を歩く自分のスピードが、異常に速くなったのにも最近気づきました。上京当初、せかせかして見えた東京の人たちを、今は自分がどんどん追い抜いて歩いています。

私が以前この東京で生活していたのは、学生時代だった約二十年前ですが、お気楽学生の身であり満員電車に乗った記憶はほとんどありません。しかし今は毎朝スリ詰め状態の満員電車で通勤しており、時には、事故による遅れなどで「殺人的」とも言える満員電車に遭遇する場合もあります。ましてや、雨の日の他人のぬれた傘や、蒸し暑い日の他人との接触など、電車内は不快この上ないものです。

しかし、自分が不快だと感じているときは、ほぼパーセント周りの人たちもそう感じているはず。これだけ多くの人たちが生活している都会です。「他人に迷惑をかけない」とほとんどの人たちが思っている、自分が気づかないところで人に不快感を与えている場合だってあるはず。そういった心の中のとおりとか余裕、他人を許せる「あそび」の部分をもちたいものです。

もっと「あそび」をもちませんか？満員電車の中で怖い顔したそのオートサン、オートサン、オネーサン、そして何より自分自身に対して。（荘内銀行企画部付・東京都）

のっけから何なのですが、最近余裕がないのです。

私は、現在富士銀行に研修派遣させていただいている単身赴任の身、懐に余裕のないのは言うに及ばず、もっと余裕のないのが「気持ち」というかハートの問題なのです。心にあそびの部分がない。ここでいう「あそび」とは、「遊び呆ける」や「戯れる」といった遊びでは決してありません。

「あそび」＝自動車などのステアリングやアクセル、ブレーキのペダルなどで余裕（仕事をしない）があること。操作しても反応が起らない部分と言う。あまりにも敏感に反応すると人間が操作できなくなってしまうために設けられている無反応の部分。

あそびは多すぎても困りますが、無いのもっと困ります。あそびがない車の運転をするのはとても疲れます。一時も気が抜けないし、なにしろ危なくてしょうがない。もちろん、あそびがない車もあります。ご存知のとおり、F1レーシングカーなどの車と言うより「マシン」は、あそびを作ったらもっとも大切な「速度」を犠牲にしています。レーサーの卓越したテクニックが直接タイヤにつながるように設計されているわけで、一般の人がレーシングカーを運転しようものなら、

急発進、急加速、急ブレーキのオンパレード、さらにちよっとハンドルを切れば塀に激突する破目になります。レーサーの才能を与えられなかった私たち一般ピープルは、あそびのある車であるからこそ安全に気楽にドライブできるし、反対に、レーサーはあそびのないマシンでとんでもないストレスやプレッシャーと闘いながら運転しているはずなのです。

車と同じで、心にもあそびの部分を持たないとつらい。私が昨年暮れに上京してからでも、心に「あそび」や「余裕」が足りないと思えない殺傷事件が電車内や駅の構内で起こっており。発端は、電車内で足を踏まれて言い争いになったとか、電車のドア付近が混んでいたの奥に詰めてほしいと言った人に逆上したとか、通常では考えられないようなさ細なきっかけによるものです。最近の子どもはキレやすいなどと騒がれておりますが、どうやらキレやすいのは子どもに限ったことではないようです。

程度の差はありますが、混雑した電車の中で、足を踏んだ踏まれたなどは茶飯事でしょうし、空いているほうに詰めてくれと言われてどうしてキレてしまうんだらうか？などと考えるながらも、自動改札機の前で切符をさがして立ち止まっているお年寄りの後ろについて